

学びびや

タイムスリップ

日本で最初の学区制小学校である京都番組小学校は、1869(明治2)年の創立時の名前は「京□□番組小学校」(□には上か下、□には番号)という名称でした。しかし、その名称は3

年ほどしか使われませんでした。72(同5)年にも変わらぬ名称、一場・御池から一字ずつとく、「智を開く」という戸籍区が設置されるのに種々の雅号のようなものが、それぞれの元番組小・間之町から同様に命変わり、名称も「番組」で使用されます。これは名された竹間校などから「区」になります。73(同6)年4月に文部

省が各学校に番号名では、ない学校名を設けることと定めたことに始まりまこの雅号はいくつかどわかりやすい校名と、銅駝校や淳風校のように平安時代の坊名に由来す

るなど少し難しい校名があります。由来がもとも難しいのが、漢籍(中国の昔の本)に典拠のあるケースです。日彰校、立誠校、成徳校など、このパターンの校名の多くが、当時の府知事榎村正直によって命名されました。

この他には、明倫舎の流れをくむ明倫校、由来が分からない生祥校や開智校などがあります。中でも、「開智」という校名は全国各地にあるので、そのもととの由来が定かでないのは不思議です。読んで字のごとく、「智を開く」という意味が込められたのでしょうか。いずれにせよ、校名は学校にとって大切なもので、アイデンティティそのものです。故に、元番組小には個性ある校名扁額が遺されています。例えば、現京都市学校歴史博物館である元開智校には、榎村正直が揮毫した墨跡をもとに制作された校舎の出入りに掲げられていました(写真①)。

時の教育政策に変わらぬ



写真①、開智校の校名扁額(1901年作製)



写真②、ラジオ体操をする子どもたち。校舎出入り口に扁額が見える(1979年夏)

京都府では、時の教育政策によって変わってきた「小学校」などの名称ではなく、一貫して「校」と呼ばれ続けてきたのも、校名が愛されるゆえんかもしれませんね。(京都市学校歴史博物館 学芸員 和崎光太郎)

今回紹介した校名扁額(現物)と写真は、学校歴史博物館(下京区)で見られます(水曜休館)。